

令和4年3月10日(木)

## 令和3年度 後期 学校評価〈報告〉

### 京都市立修学院中学校

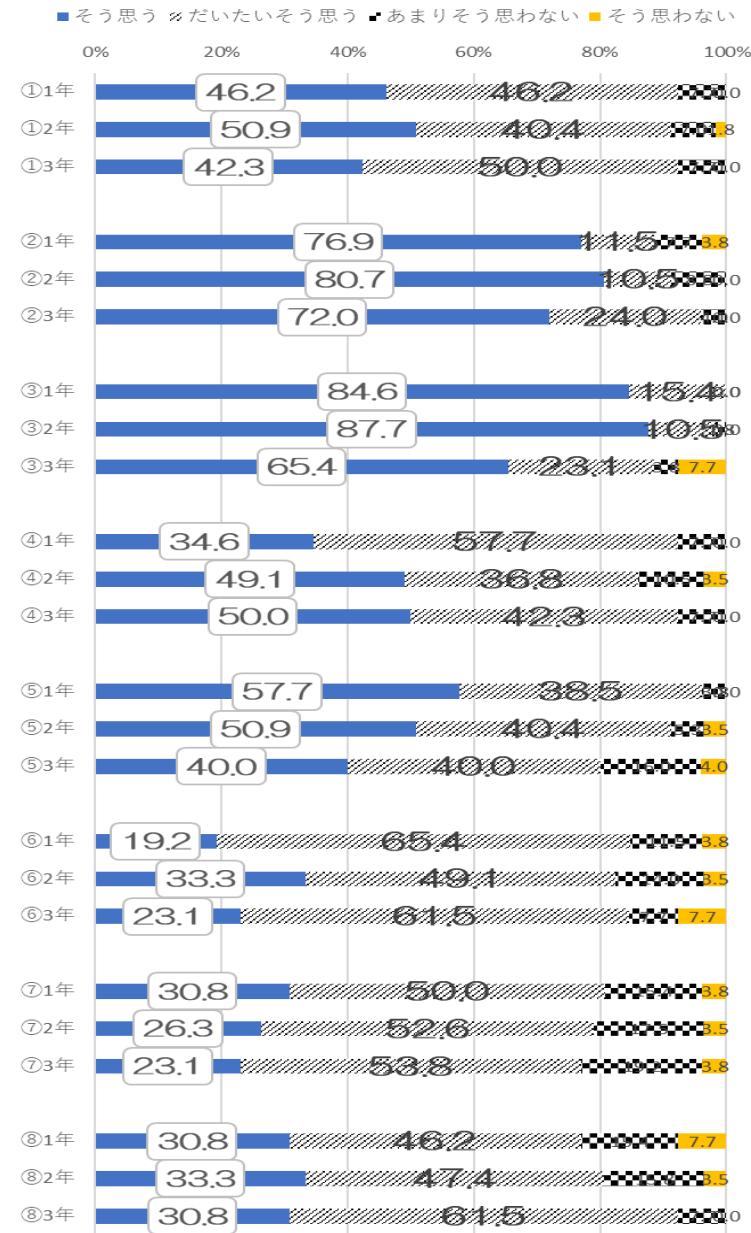
1月上旬に実施しました学校評価アンケート(生徒・保護者)の結果についてお知らせいたします。

#### ○生徒○

##### R3生徒アンケート結果(後期)

1年206/221(93.2%) 2年209/227(92.1%)

3年179/217(82.5%)



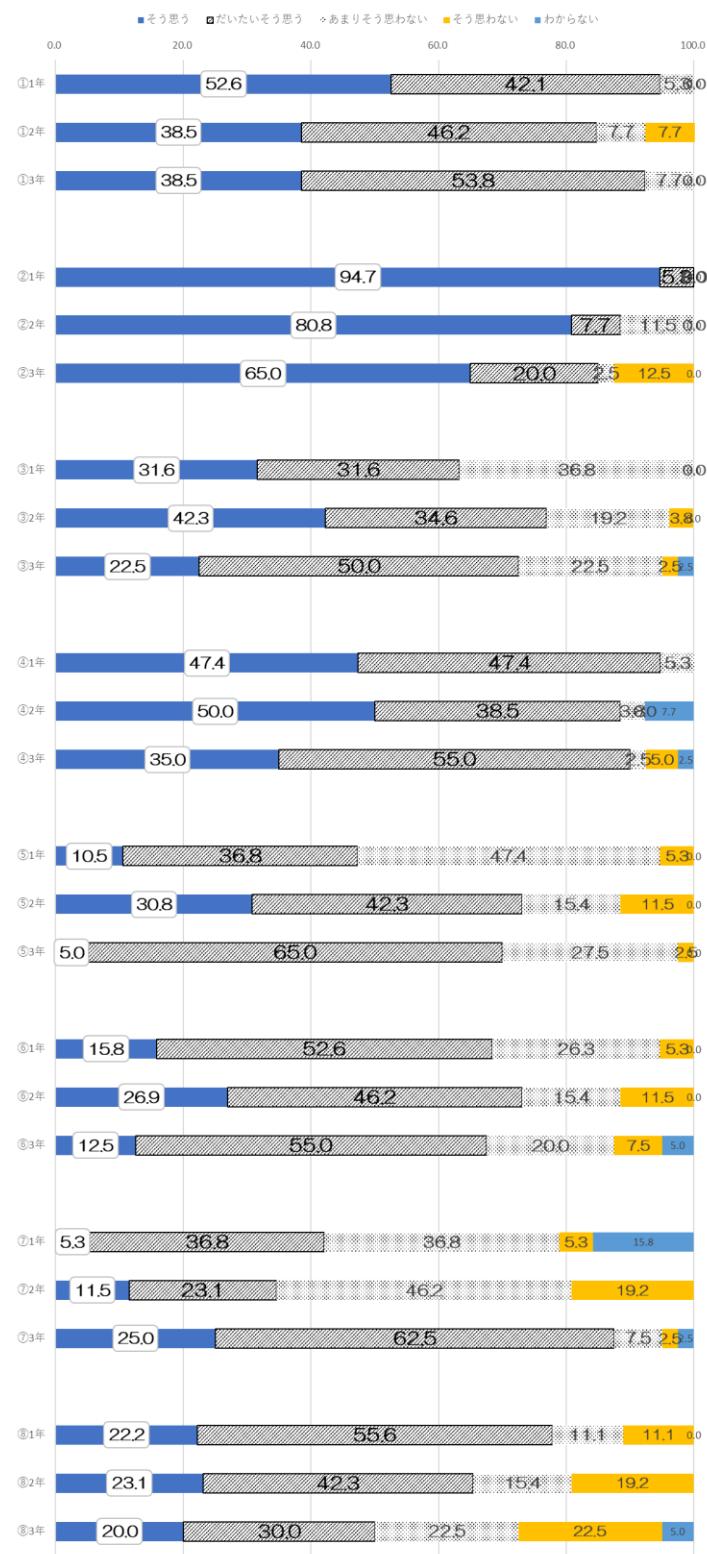
1. 楽しく学校に通えている。
2. 朝食は、とれている。
3. 今年度(今年の4月から)いじめや嫌がらせを受けっていない。
4. 先生に学習や進路について相談できる。
5. 先生に学校生活について相談できる。
6. 学校の授業が理解できる。
7. 每日の授業で学力がついてきた。
8. スマホやゲーム機などのルールを守って使っている。

#### ○保護者○

##### R3保護者アンケート結果(後期)

1年147/221(66.5%) 2年163/227(71.8%)

3年142/217(65.4%)



1. 子どもは楽しく学校に通えている。
2. 子どもは朝食をとっている。
3. 子どもと学校の様子を話している。
4. 今年度子どもは、いじめや嫌がらせを受けていない。
5. 授業参観に参加している。
6. 学校行事に参加している。
7. 「学校だより」「学年だより」「ホームページ」等で学校の様子がよくわかる。
8. 子どもは、学校の授業で基礎的な学力がついてきている。
9. 入試制度に関する情報は得られている。
10. スマホ・ゲーム機などの使用について、ルールを決めている。

\*帯グラフは上から質問項目順に並んでいます。

## 1. 学習指導について

今年度を振り返りますと、収束したと思われた新型コロナウイルスが再度広がりを見せる中、お互いにコミュニケーションを図りながら行う授業の自粛、そして、自宅待機の期間などがあり、「自学自習ができる力」を身につけて行かなくてはならないと感じています。

朝読書で、『自ら読み、理解する』ということを毎日習慣として実施しています。同様に、授業外でも教科書等を開く習慣をつけることが大切だと感じています。我々教職員においても、自学自習できるような力をつけていくこと、そして、自分で見て、読み、理解できる教材の工夫と言う観点において、改善の必要性を感じた1年でした。

次年度はさらにタブレット端末をはじめとした情報機器の活用が進んでいきます。最初は不慣れな部分もあり、従来型の授業が良いと感じる部分もあるかと思いますが、少しずつ端末の利用に慣れ、活用できるようになれば学習の大きな助けとなります。

wi-fiへの接続など、ご家庭でもご協力いただくことが出てくるかと思いますが、我々教職員も力を合わせ子どもたちの成長のために頑張っていきたいと思います。

## 2. 生徒指導について

このコロナ禍で生活や学びのペースを維持することは、発達段階にある中学生にとって大きなエネルギーを必要としたと思います。そんな中、学級閉鎖や自宅待機などの環境下で、生徒たちはよく頑張っていると思います。

一方で、表面的には変化を見せずとも、学び（学力だけではなく人間関係の構築や規範意識の醸成を含みます）のペースがつかみにくくなっている生徒、心身が疲れている生徒がいるように感じます。不安を埋められるのは、温かい思いやりの心と、自分の居場所を感じられることではないかと思われます。「ソーシャル・ディスタンス」という言葉が瞬く間に広まった今だからこそ、人のつながりや居場所づくりが生徒の成長に必要ではないでしょうか。日常の声かけはもちろんですが、今後も感染症対策を講じた教育活動や、タブレット端末を使いできる限り生徒会活動・行事を止めることがないように進めてまいりたいと思います。

また、昨年度から引き続きSNSに関わるトラブルが散見されます。行き過ぎた言葉、画像や動画のトラブルなど、相手の立場や感情を想像できないが故のトラブルです。多くの場合「傷つけてやろう」といった意図はなく、「結果的にトラブルになってしまった」となることがほとんどです。そこには「まだまだ現実のコミュニケーション能力が未熟な段階で、画面越しのコミュニケーションに失敗する。」という構図が見て取れます。

校内では教科や道徳、外部の専門家を招いた「スマホ・ケータイ教室」などをはじめ、デジタル化社会でより良く生きるための教育を日々行っております。しかしこの学習に関して“十分”はありません。家庭との連携も不可欠です。例えば家庭では、使用ルール設定や使用内容の確認、フィルタリング機能の設定などが挙げられます。スマホやタブレット端末は便利であり、社会に出るときに使いこなせるようになった方がよいのかもしれません。しかし、そのためには誰も傷つかない形で生徒達の学ぶ機会を確保していきたいものです。複雑になるSNS時代を生きていく生徒達の健全育成のためにも「学校」と「家庭」が力を合わせ、前進していくことを何卒宜しくお願ひいたします。

令和3年度 後期学校評価アンケート結果に寄せて

令和4年3月10日  
学校運営協議会評価部会  
部会長 小池 寛

新しい年を迎えての急速なオミクロン株の感染拡大は、学校生活や部活動に大きな影響を与えていました。特に、高校受験の最中、本校におきましても学級閉鎖が相次ぎ、生徒や保護者をはじめ、先生方も不安な日々を余儀なくされています。

このような状況のなかで実施しました後期学校評価アンケートには、「修中でよかったです！」に代表されるように先生方の教科指導や部活指導に感謝するコメントが数多く寄せられています。それに加えて、さまざまな行事の実現に向けた直向きな先生方の取り組みに対する謝辞や「長いコロナ生活、先生方も大変な毎日」を送られていることに対する労いの言葉が寄せられています。評価部会では、先生方の弛まないご尽力に敬意を表するとともに、これからも生徒が充実した学校生活が送れることを願い、以下の項目について提言します。

- 1 授業中の私語を問題視する記述が見られます。言葉遣いや友達関係において相手を尊重することの大切さを今まで以上に啓発してください。
- 2 学校の授業だけでの基礎学力の定着について、不安を示すコメントが見受けられます。生徒とのコミュニケーションをより一層深めていただくなどの取り組みをさらに継続してください。
- 3 「言うは易く、行うは難し」が、コロナ感染防止策であることは重々承知しておりますが、感染防止対策について今一度、再点検をしていただき、感染拡大防止の弛まぬ継続をお願いします。

※ 評価部会は、学校をサポートするために何をすべきかを討議し、実現にむけて取り組んでまいります。